

JESCO 豊田PCB廃棄物処理 事業だより(No.118)
Japan Environmental Safety Corporation

1. 環境モニタリングについて

豊田PCB廃棄物処理施設では、豊田市との環境保全協定に基づき、豊田事業に伴うPCBなどを施設の外部へ排出していないことを確認するため、定期的に環境モニタリングや排出モニタリングを実施しています。

この結果は3ヶ月ごとに豊田市へ報告すると共に、測定結果は、毎年豊田事業のHPで公表しています。

主な項目は、以下の通りです。

【環境モニタリング】

敷地周辺での大気(PCB・ダイオキシン類・ベンゼン)、土壌(PCB・ダイオキシン類・等)、地下水(PCB・ダイオキシン類・その他有害物質等)。

【排出モニタリング】

各排出口等での大気(PCB・ダイオキシン類・ベンゼン)、排出水(PCB・ダイオキシン類等)、騒音・振動、悪臭。



2. PCB廃棄物保管事業者(少量)の皆さまに対する説明会について



豊田PCB廃棄物処理施設では少量保管事業者(保管台数が20台未満の事業者)の皆さまに処理に向けた説明会を計画的に行っています。

1月15, 16, 23, 24日に静岡県下田市、熱海市、伊東市、賀茂郡、伊豆市、伊豆の国市を対象に説明会を開催し、合わせて180社の事業者の方々にご出席いただきました。

さまざまな規模で保管されているPCB廃棄物の処理を着実に推進するため、今後も計画的に少量保管事業者の皆さまに向けた説明会を開催していきます。

3. 豊田PCB廃棄物処理施設の運転状況についてのご報告

26年1月の処理台数

種 別		処理台数
コンデンサ類		552 台
トランス類	大 型	4 台
	小 型	20 台
	車 載 型	6 台
廃PCB等		18 本
保管容器		2 個

平成26年1月の処理実績は左表のとおりです。

引き続き、安全かつ確実な処理を継続してまいります。

PCB処理事業紹介シリーズ 第2回

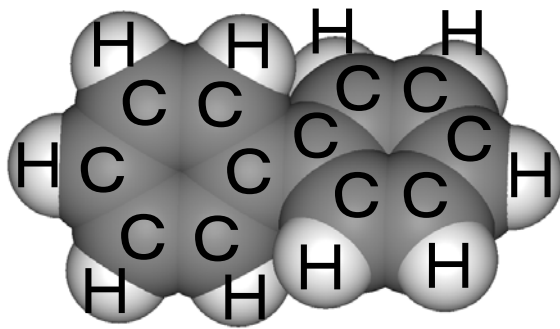
今月は当処理施設で処理をしているPCBについてご紹介します。

◆PCBとは

PCBとはポリ塩化ビフェニルの略称です。

PCBは燃えにくい、電気を通しにくい、水に極めて溶けにくいなどの性質を持つ油状(塩素数が多くなると、白色の結晶状のものもある。)の物質です。

また、熱により分解しにくく、化学的に安定などの特徴があり、主に塩素数が3~5のものが絶縁油や熱媒体として使用されました。



C:炭素、H:水素、Cl:塩素



◆なぜPCBが問題になったのか？

1968年(昭和43年)にカネミ油症事件が発生し、PCBの毒性が社会問題となりました。

この事件は、カネミ倉庫株式会社が製造した米ぬか油(ライスオイル)の中に脱臭工程の熱媒体として用いられていたPCB等が混入したことが原因で、西日本を中心に広範囲にわたって油症と呼ばれる特異な症状をもつ中毒が発生しました。

一般にPCBによる中毒症状として、目やに、爪や口腔粘膜の色素沈着などから始まり、ついで、座瘡様皮疹(塩素ニキビ)、爪の変形、まぶたや関節のはれなどがあります。

当時、被害を届け出た方は約1万3千名にのぼったと言われています。

◆PCB廃棄物処理開始の経緯

1972年(昭和47年)行政指導(国)により製造中止、回収等の指示がなされました。

1974年(昭和49年)に『化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律』に基づく第1種特定化学物質に指定され、PCBは製造・輸入、そして新たな使用が禁止されました。

しかし、安全に処理できる施設がなく、長期間にわたり保管事業者の下で保管されたままとなり、問題となっていました。

2001年(平成13年)に『PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法(PCB特措法)』が制定され、そして2004年(平成16年)に日本環境安全事業株式会社(JESCO)が発足しました。同年12月からJESCO北九州事業所において、国内で初めてPCB廃棄物の処理が開始されました。

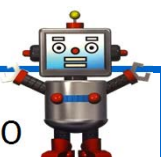


アザラシのピーちゃん

問い合わせ

日本環境安全事業株式会社(JESCO) 豊田事業所 0565-25-3110

【豊田事業HP】 <http://www.jesconet.co.jp/facility/toyota/index.html>



デジ丸